2011年度

環境レポート

対象期間 2011年1月～2011年12月

作成日： 2011年1月22日
更新日： 2012年4月20日

株式会社フォーミット

□ごあいさつ

当社はこれまで各種自動省力機械を始め、様々な産業機械の設計･製作に従事して参りました。これまでに蓄積したノウハウを駆使して、『独自の発想』と『確かな技術』でお客様の信頼にお応えしております。今後とも常に高い目標を掲げ最先端の技術に挑戦し、新しい時代を切り開くパートナーとして、皆様に貢献できますよう努力して参りますとともに、社員一人ひとりに環境にやさしい取り組みを根付かせ、それが家族や地域社会に広がりを持つように活動を続けていきます。

代表取締役社長　　中林　康二

環 境 方 針

1　事業活動の全ての領域で、省エネルギーの推進、排出物の減量化、資源の有効利用などを行い、環境保全に貢献します。

2　省エネルギーなど、環境負荷を考慮した技術開発に努めます。

3　省エネルギー、省資源、再生資源利用商品など、環境負に配慮した物品の調達に努めます。

4　保全の理解を深めるため、社内外の関係者を巻き込んで環境管理活動を推進します。

5　国や地域において定められた法律や規則を遵守すると共に、一層の継続的改善と維持管理に努めます。

制定日：　2003年5月26日
改定日：　2010年3月15日

代表取締役社長　　中林　康二

□組織の概要

（１） 名称及び代表者名
株式会社 フォーミット
代表取締役社長　中林 康二

（２） 所在地
大阪府豊中市原田元町２－２１－４

（３） 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者　代表取締役社長　中林 康二　TEL：06-6845-4310
担当者　ＳＥ(システムエンジニア)部　宮原 秀樹　FAX：06-6842-3510

（４） 事業内容
自動制御機器の設計、製作、販売

（５） 事業の規模
社員数　３名
事務所延床面積　５０㎡

（６） 事業年度　１月～１２月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：　株式会社 フォーミット

対象外：　なし

活動：　自動制御機器の設計、製作、販売

□主な環境負荷の実績

項　目	単位	2009年	2010年	2011年
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	9,384	4,061	5,473
廃棄物排出量	k g	532	40	9
水使用量	m^3	112	※－	※－

※電力の二酸化炭素排出係数：0.378

※2010年3月より事業所使用面積が568㎡から50㎡に縮小になったため、目標基準値を大幅に見直しました
　上記理由により本年度から環境負荷の計測基準値を新たに設定しました

※2010年3月より水使用量は事務所移転のため共用メーターになり把握不可となりました

□環境目標･実績

項　目 ＼ 年　度		基準値 (基準度)	2011年 上段：通年 (目標)	(実績)	2012年 (目標)	2013年 (目標)
電力の二酸化炭素削減	kg-C02 基準年比	4,061 2010年	4,061 100%	3,705 91%	3,939 97%	3,899 96%
自動車燃料の二酸化炭素削減	kg-C02 基準年比	1,590 2009年	1,590 100%	1,768 111%	1,542 97%	1,526 96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-C02	5,651	5,651	5,473	5,481	5,425
廃棄物量の削減	kg 基準年比	40 2010年	40 100%	9 23%	39 97%	38 96%
グリーン購入(新規)	円 基準年比	全購入金額に対する比率 2010年	75%	33%	75%	75%
環境負荷を考慮した技術開発(新規)	ソフト数 基準年比	全納入数に対する比率 2010年	70%	86%	70%	70%

※水道の個別メーターがないため、行動目標とします

□環境活動計画と結果及びその評価、次年度の取組内容

◎よくできた　○ままできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
電力の二酸化炭素削減			
数値目標	○	□上方修正　□下方修正　□基準見直し	
・クールビズ、ウォームビズ運動の推進	◎	継続	年度目標値に対し 約９２％で達成できた。徹底したクールビズ、ウォームビズ運動、並びに電化製品未使用時の電源off活動が慣行できた。更なる省エネルギーを達成するための活動計画を展開し、経営改善に役立てたい。
・電化製品未使用時の電源off	○	継続	
・事務所照明を高効率な蛍光灯に交換	△	継続	
・使用電力量の案内で節電意識向上	○	変更	
・ＰＣ待機電力カット	○	継続	
自動車燃料の二酸化炭素削減			
数値目標	×	□上方修正　□下方修正　□基準見直し	
・遠方の出張は公共の移動を呼びかけ	△	継続	上半期は出張が多くまた、高速料金割引(無料)適用地域への出張では車を多用した結果、目標値を超過する月が続きました。経費削減、業績向上を図ったためではありますが、後半は目標達成に向けて”公共機関の利用と経済運行をより一層慣行する”ことで是正策としました。
・経済速度での走行	○	継続	
・事前経路確認で無駄な走行を無くす	○	継続	
廃棄物量の削減			
数値目標	○	□上方修正　□下方修正　■基準見直し	
・リユースやリサイクルの利用頻度を向上	○	継続	年度目標値に対し 約２３％で達成できた。基準年度の前年は事務所移転に伴う廃棄物が含まれていたことを加味配慮しても、廃棄物削減に対する意識が全員に浸透している結果と言えます。またリサイクル率 ８０．６％を達成。着実な適正廃棄により資源有効利用にも貢献できています。
・産業廃棄物の適正廃棄	○	継続	
水道水の削減			
数値目標		□上方修正　□下方修正　□基準見直し	
・節水運動を引き続き呼びかる	○		行動目標として全員に節水意識を高める
グリーン購入(新規)			
数値目標	×	□上方修正　□下方修正　□基準見直し	
・最新のカタログを参考に環境負荷低減商品を確認購入する	○	継続	対象品目のない商品（クリーン紙）の購入金額の比率が高く、目標を大きく下回る結果となった。クリーン紙は業務上必須商品であり、また購入総額(母数)が少なく顕著化した現象で、やむを得ない結果ともいえます。今後更に最新カタログ等による調査を行います。
環境負荷を考慮した技術開発(新規)			
数値目標	○	□上方修正　□下方修正　□基準見直し	
・一定時間空運転状態となった時、省エネモード運転となるソフトプログラムの提供	○	継続	引き続きユーザに提案・採択されるよう継続して活動する。ハード面においても省エネ対応の機器見直し提案を積極的に行い、経営改善に役立てていきます。
・システム構成機器の見直しによる省エネ対応	○	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
グリーン購入法	購入物品
自動車リサイクル法	自家用車

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去３年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

環境活動が定着し、マテリアルフロー/マテリアルバランスを全社員で把握できています。今後は環境負荷を考慮した技術開発･向上を重点課題として取組み、より一層の環境保全に勤めたいと思います。

□環境活動の紹介

環境方針にも記載していますが、弊社では環境負荷を考慮した技術開発に努めています。本年度のテーマの一つに”省エネモード運転となるソフトプログラムの提供”があり、ユーザに提案し採択されるようになってきました。その一例をご紹介したいと思います。

製造ラインに於いて稼働率を上げることは重要課題です。しかし機種変更による段取り替え作業等で、装置はどうしても待機状態もしくは停止状態が発生します。待機状態の時は装置が稼動状態（運転状態）となっていますので、電気消費量に加算されてしまいます。弊社では装置がこのような待機状態となった場合、出来得る限り電気容量を抑える装置運転を心がけて設計しています。
待機状態となった時はエコ運転モードに切り替わり、生産開始時にはすぐに生産可能な状態に復帰させるような装置運転制御設計を提案、実施しています。